

国 語

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の基本方針

今回の学習指導要領の改訂において、「生きる力」を育むという現行学習指導要領の理念は継承され、高等学校国語では、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う力を育成することや、社会人として必要とされる言語能力を確実に育成することなどが、引き続き重視される。

「伝え合う力」とは、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり的確に理解したりして、円滑に相互伝達、相互理解を進めていく能力のことである。国際化、情報化等、変化の激しい現代社会では、一人一人が良好な人間関係づくりや健全な社会づくりに積極的にかかわろうとする意欲や態度が求められる。言語の教育の立場に立つ国語科は、「伝え合う力」を高めることを通して、そのような意欲や態度を育てていこうとしているのであり、この「伝え合う力」こそ、「知識基盤社会」の時代を担う生徒にとって、生きてはたらく国語の力として重要なものである。

中央教育審議会答申では、学習指導要領の改訂に当たり、国語科における課題を次のように整理している。

【国語科における課題】

- 国際的な学力調査の結果から、読解力において低下傾向が見られる。具体的には、文章や資料の解釈、熟考・評価や、論述形式の設問に課題がある。
- 教育課程実施状況調査においては、全体として正答率は高くなっているが、記述式の問題については低下するなどの課題が見られる。比較的自由に自分の気持ちを表現する設問は正答率が上昇しているのに対し、文章を深く読んで分析的に理解してその上で論理的に記述する設問では正答率が低下している。高等学校では、古典に親しむ態度や読む能力、文語や訓読のきまりの理解に課題がある。
- 特定課題に関する調査結果から、漢字の習得については、実生活や学習場面での使用頻度が高い漢字は定着しているが、使用頻度が低いものや使用範囲が狭い漢字については定着が十分でないという課題がある。
- 敬語については、文化庁の世論調査において、敬語の使い方に間違いが多くなってきていると回答した者が80%を超えており、子どもたちが敬語を生活の中で適切に使うことができるようにする必要がある。

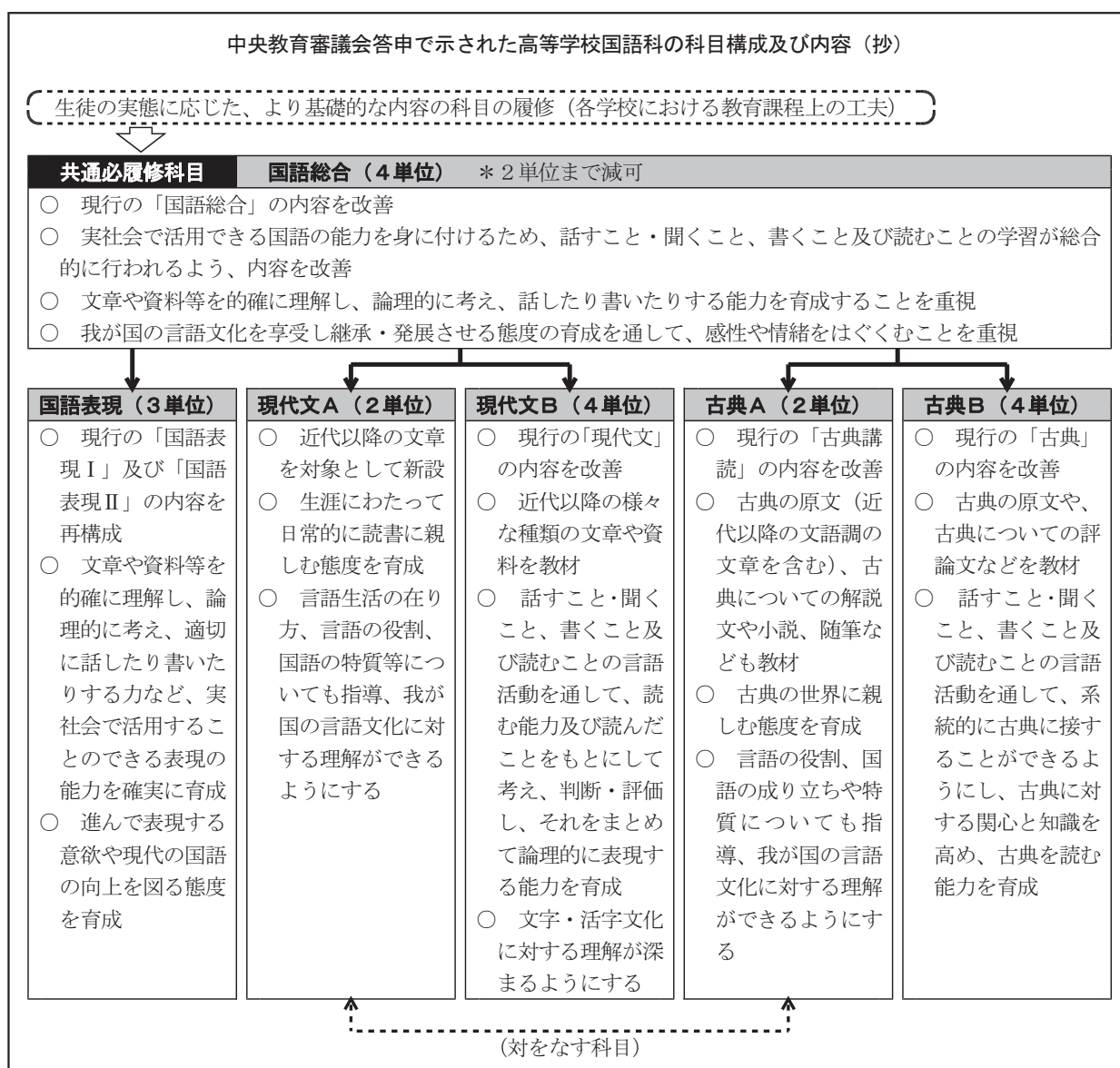
国語科については、こうした課題を踏まえ、言語の教育としての立場を一層重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらく、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善が図られる。

特に、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒を育むことを重視することとしている。

(2) 改善の具体的事項

学習の基盤であり、言語を活用する能力を高める国語については、現在選択必修となつているが、義務教育の成果を踏まえ、共通必修科目を置く必要があることが、答申に示されている。

また、中学校までに培われた国語の能力を更に伸ばし、社会人として必要とされる国語の能力の基礎を身に付けることができるようにするとともに、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に応じた多様な学習が行われるよう、各科目の構成及び内容を次のように改善する方向で検討が進められている。



(3) 教育内容に関する主な改善事項

答申には、学習指導要領改訂の基本的な考え方を踏まえ、充実すべき重要事項が6点にわたり示されているが、そのうち、各教科等を貫く重要な改善の視点である、各教科等における「言語活動の充実」は、特に国語科とのかかわりが深い事項である。

国語をはじめとする言語は、知的活動（論理や思考）だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。国語科においては、基本的な国語の力を定着させ、また、古典の暗唱などにより言葉の美しさやリズムを体感させるとともに、記録、要約、

説明、論述といった言語活動を行う能力を培う必要がある。国語科以外の各教科等においては、このような国語科で培った能力を基本に、それぞれの教科等の知識・技能を活用する学習活動を充実させることが重要であることから、国語科の役割はきわめて大きい。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

(1) 思考力・判断力・表現力等を育成する指導

教育課程実施状況調査やPISA調査等、各種調査の結果から課題として明らかになった「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を育むためには、各教科の指導の中で、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、例として次に示したような、それぞれの教科の知識・技能を活用する学習活動を充実させ、言語に関する能力を高めていく必要がある。

各教科で思考力・判断力・表現力等を育成する学習活動の例（抄）

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
(例) ・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
(例) ・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
(例) ・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する
・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
(例) ・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる
(例) ・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う
・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる

(中央教育審議会答申より抜粋)

国語科においても、例えば、「話すこと・聞くこと」の領域で身に付けさせた話合いに関する言語能力を、「読むこと」の領域における言語活動として活用するなど、領域間の関連を図りながら、知識・技能を活用する学習活動を充実することが大切である。

また、国語科には、各教科等における知識・技能を活用する学習活動を支える基本的な言語能力をしっかりと育成することが求められている。例えば、校内弁論大会に合わせて「筋道を立てて意見を述べること」を目標とした単元を配置するなど、学校行事や特別活動等において、国語科で身に付けさせた言語能力が活用できるよう指導の時期を考慮した年間指導計画を立てたり、いつ、どのような言語能力を育成しているかを他教科等に示し、国語科において身に付けさせた言語能力を、他教科等において活用してもらえるようにしたりするなど、学校全体の教育活動と連携を図ることが大切である。

こうした際には、学力等実態調査の結果や次ページに示したようなアンケートの結果

などを活用して、自校の生徒の国語の能力を把握したり、課題を踏まえて目標を設定した指導計画を立てたりするなどして、継続的に授業改善を図っていくことが大切である。

A 高等学校における「他教科の教員向けアンケート」集計結果より					
(数字は、人数)					
質問項目	A	B	C	D	N
ア 国語の勉強は、他教科を学ぶ上でも大切だ。	30	7	0	0	0
イ 国語の勉強は、社会に出て生きていく上でも大切だ。	30	6	0	0	1
ウ 生徒の考えて話す力がついてきている。	2	4	9	11	11
エ 生徒の聞く力がついてきている。	2	4	9	10	12
オ 生徒の考えて書く力がついてきている。	2	4	8	10	13
カ 生徒の読む力がついてきている。	2	5	10	8	12
キ 生徒のお互いの思いや考えをうまく伝え合う力がついてきている。	2	4	14	8	9
ク 生徒の漢字力がついてきている。	5	11	6	6	9

〔凡例〕 A そう思う B どちらかといえばそう思う C どちらかといえばそう思わない
D そう思わない N 分からない

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成する指導の例

平成19年度学力等実態調査においては、「国語を勉強すれば、私のふだんの生活や社会生活の中で役立つ」との質問に肯定的な回答をした生徒は、約8割であり、他教科に比べ高い割合であった。しかしながら、敬語表現に関する問題とその結果は次のとおりであり、設定通過率を下回る結果となっている。

北海道高等学校「平成19年度学力等実態調査」(国語総合)集計結果より						
● 学習状況等調査						
設問1(3) 国語を勉強すれば、私のふだんの生活や社会生活の中で役立つ。						
回答状況	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない	
全道	40.2%	41.3%	9.2%	4.6%	4.4%	
全国(H17)	39.4%	41.0%	8.8%	6.1%	4.4%	
● ペーパーテスト (A問題)						
問題番号	学習指導要領の内容	出題のねらい	設定通過率	全道通過率	無回答率	
4四	ア	〔言語事項〕オ 国語の成り立ちや特質、言語の役割などを理解すること。	国語の特質としての敬語表現を理解している。	60%	45.1%	15.9%
	イ			55%	42.9%	11.6%
【問題】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4四 次のア、イの文中の——部分を、それぞれ適切な敬語表現に直しなさい。</p> <p>ア (生徒が先生に)「私が書いた小説を、ぜひ<u>拝見</u>していただきたいのですが。」</p> <p>イ (社員が来客に)「当社の社長が、このように<u>おっしゃ</u>っています。」</p> </div>					

国語総合の授業において、敬語に関する知識を活用する言語活動を取り入れ、身に付けさせた言語能力が実生活で生きてはたらくようにすることを目指した指導の例を次ページ以降に示す。

敬語表現に関する能力は、実生活で必要とされる言語能力であり、ここに示した国語科における指導と、インターンシップなどの体験学習とを関連付けることにより、場面に応じたふさわしい言葉遣いを判断し、表現する能力を実践的に育成することができる。

ア 単元における指導と評価の計画の例

科目名	国語総合	単元名	適切な言葉遣い〔話すこと・聞くこと〕	
単元の目標	(1) 言語の役割に関心を持ち、話す相手を意識し、言葉遣いに気を付けて話そうとする態度を身に付ける。(関心・意欲・態度) (2) 目的や場に応じた適切な言葉遣いで、効果的に話す。(話す・聞く能力) (3) 敬語の用法について理解する。(知識・理解)			
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解	
単元の評価規準	言語の役割に関心を持ち、話す相手を意識し、言葉遣いに気を付けて話そうとしている。	目的や場に応じた適切な言葉遣いで、効果的に話している。	敬語の用法について理解している。	
配当時間	3時間			
各時間の指導と評価の計画				
時	各時間の目標	学習活動	学習活動における 具体的評価規準	評価方法等
1	・敬語の用法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらい及び学習内容を確認する。 敬語の種類や使い方の留意点について確認し、適切な敬語の使い方を理解する。 	「関心・意欲・態度」 敬語の役割や必要性に関心を持ち、進んで理解しようとしている。 「知識・理解」 敬語の種類や使い方を理解している。	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 確認用プリントの記述状況及び記述内容の点検
2	<ul style="list-style-type: none"> 目的や場に応じた適切な言葉遣いで、相手の理解や納得を得ることができるよう、効果的に話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの会話文Ⅰについて、適切な敬語表現に直す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 直した会話文について、ロールプレイの手法を用いた会話を行う。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの会話文Ⅱについて、敬語表現を用いた会話をつくり、ロールプレイの手法を用いて確かめる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 活動や話し合いを通じて学習したことをワークシートに整理する。 	「関心・意欲・態度」 役割に応じた適切な言葉遣いにより、積極的に相手に話そうとしている。 「話す・聞く能力」 設定された場面に応じて、相手意識を持ち適切な言葉遣いで効果的に話している。	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 ワークシートの記述状況及び記述内容の点検
3	<ul style="list-style-type: none"> 敬語の役割や必要性について理解を深め、目的や場に応じた適切な言葉遣いを身に付ける。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【言語活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループを設定し、前時に考えた会話文をお互いに発表し合う。 発表した会話文について会話における役割ごとの適切な言葉遣いや敬語の適否などを話し合い、相互評価をする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 演習として、適切な敬語を使った会話文を書く。 	「関心・意欲・態度」 敬語の役割や必要性を進んで理解しようとしている。 「話す・聞く能力」 目的や場に応じた適切な敬語を正しく使い分けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 演習用プリントの記述状況及び記述内容の点検

イ 各時間の指導と評価の実際

<p>第 2 時 の 目 標</p>	<p>・目的や場に応じた適切な言葉遣いで、相手の理解や納得を得ることができるよう、効果的に話す。</p>	
<p>本時の評価の観点 及び 評 価 規 準</p>	<p>「関心・意欲・態度」 役割に応じた適切な言葉遣いにより、積極的に相手に話そうとしている。 「話す・聞く能力」 設定された場面に応じて、相手意識を持ち適切な言葉遣いで効果的に話している。</p>	
<p>学 習 活 動</p>	<p>指 導 上 の 留 意 点</p>	<p>評 価 の 実 際</p>
<div data-bbox="247 577 464 748" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ワークシートの会話文Ⅰについて、適切な敬語表現に直す。</p> </div> <div data-bbox="247 1025 464 1227" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【言語活動】 直した会話文について、ロールプレイの手法を用いた会話を行う。</p> </div> <p>・二人一組で役割を演じる。 ・相互評価をする。</p> <div data-bbox="247 1397 464 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【言語活動】 ワークシートの会話文Ⅱについて、敬語表現を用いた会話をつくり、ロールプレイの手法を用いて確かめる。</p> </div> <p>・場面設定に応じた適切な言葉遣いを工夫する。</p> <div data-bbox="247 1845 464 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>活動や話し合いを通じて学習したことをワークシートに整理する。</p> </div>	<p>・傍線部が適切な敬語表現となるように直させる。 ・直した根拠について説明できるよう、メモ等しておくことを指示する。</p> <p>・ロールプレイの手法や目的について説明し、理解させる。</p> <p>・二人一組で相談しながら、それぞれが異なる場面設定とするよう指示する。 ・実際に会話をしてみながら、より適切な言葉遣いとなるよう、いろいろと工夫してみることを指導する。 ・次の時間に、グループ内で発表することを伝える。</p> <p>・二人で気が付いたことを確認し合いながら、自己評価を行わせる。 ・机間指導をしながら、優れた意見があれば適宜発表させる。</p>	<p>「関心・意欲・態度」 ・相手を意識した敬語表現となるよう留意しながら、積極的に取り組んでいるかを、生徒の活動状況の観察や、ワークシートの記述内容の確認により評価する。</p> <div data-bbox="874 801 1409 987" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>—— 【評価Cの生徒への指導の手だて】 —— 敬語表現の理解が不十分だったり、ワークシートの作業を進められない生徒に対しては、前時の確認プリントや教科書を参考にしよう助言する。</p> </div> <p>「話す・聞く能力」 ・設定された場面に応じて、相手意識を持って適切な言葉遣いで効果的に話しているかを、生徒の活動状況の観察や、ワークシートの記述内容の確認により評価する。</p> <div data-bbox="874 1249 1409 1435" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>—— 【評価Cの生徒への指導の手だて】 —— ロールプレイをすることを恥ずかしがるなど、活動に積極的に取り組むことができない生徒に対しては、教師が実際にやってみせるなどして活動を促す。</p> </div> <div data-bbox="874 1458 1409 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>—— 【評価Cの生徒への指導の手だて】 —— 場面や状況がうまくイメージできない生徒に対しては、実際の自分の生活場面を具体的に思い出すことなどを助言したり、場面や人物の設定について相談し合い、共通理解を図りながら取り組むことを促す。</p> </div>

「敬語でロールプレイ」ワークシート

年 組 番 名

会話文Ⅰ ①～③の会話文の傍線部を適切な敬語に直して会話しよう。

進め方

- ・まず、傍線部を適切な敬語に直そう。(教科書や確認プリントも参考にしよう)
- ・次に、二人一組を作り、お互いが演じる役を決めよう。
- ・役が決まったら、実際に会話してみよう。(最後は何も見ないでできるといいね)

① 生徒「校長先生、これはカナダの伯父さんにいただいた絵はがきなんです。見ると、校長「ありがとう、佐野君。さっそく見せてもらいますよ。」

② 生徒「山本先生、渡辺先生は職員室にいないの？」

先生「渡辺先生は、今週いっぱい出張のため、学校には来ていません。」

③ 先生「週末の家庭訪問について、村田君はお母さんから何か聞いていますか。」

生徒「お母さんは、今度の金曜日は都合が悪いって。」

○相互評価 会話文Ⅰで直した敬語の使い方を、お互いに評価しよう。

評価規準

- a 敬語を使うべき相手、使わなくてよい相手がきちんと区別できていますか。
- b 尊敬語、謙譲語など、相手や立場に応じた適切な敬語表現になっていますか。
- c 「行かさせて」などの過剰敬語になったり、単なる受身表現になっていませんか。

◎	○	△	×
①	a	b	c
②	a	b	c
③	a	b	c

会話文Ⅱ

①～③について、敬語を適切に使い、次の場面と話し手を想定した会話文を作ろう。

進め方

- ・次の「話し手」による会話文を、() 内に示した場面を想定しながら、「」内に台詞を入れて完成させよう。(敬語表現は一つ以上入れよう)
- ・敬語が使われている部分に傍線を引いて、適切な敬語表現かどうかを確認しよう。
- ・実際に会話してみよう。(自然な敬語表現になっているかをお互い確認し合おう)

① (駅の改札口で、バスへの乗継の方法について、**駅員**が**乗客**に質問された)

乗客↓駅員

駅員↓乗客

② (会社で、**取引先**から社長に電話があったが、不在のため、**自分**が代わりに電話を受けた)

取引先↓自分

自分↓取引先

③ (客)から注文された商品の在庫の確認を、**自分**が在庫管理の**担当者**に依頼した)

客↓自分

自分↓客

自分↓担当者

○授業の評価と振り返り

・今日の学習について、自己評価しました。

・今日の学習で身に付けることができたのはどのような力ですか。

・この力は、これからのどのような場面でのどのように活用することができそうですか。

Topic

キャリア教育の推進について

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」（平成20年1月17日）では、「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」の一つとしてキャリア教育を取り上げています。

子どもたちが社会人・職業人として自立していくためには、「生きる力」を育むという理念に基づき、子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実させることが重要であり、国語科には、実生活で生きてはたらく国語の力を身に付けさせること、特に高等学校においては社会人として必要な国語の能力の基礎を確実に育成することが求められています。

各学校では、キャリア教育の一環として、総合的な学習の時間や各教科、特別活動において、就業体験活動などの取組を行っているところですが、国語科としては、こうした取組と国語科の指導内容を連携させることで、教科国語において身に付けた言語能力が活用され、それらの能力の一層の定着が図られたり、生徒が実際の接客や文書作成などの体験を通して、言語能力を身に付けることの大切さを理解したりするなどの効果を期待することができます。

A 高等学校における実践例

	教科国語で行う学習活動	教科国語で身に付いた能力を活用する場面
5月 6月	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識や技能の習得 ・漢字の学習（通年） ・敬語の学習 ・電話のかけ方 ・手紙の書き方 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターンシップにおける活用 ・受入先等とのやりとり（話す力・聞く力の活用） ・受入先への礼状（書く力の活用） ・成果報告会（話す力・聞く力の活用） ・レポート、感想文作成（書く力の活用）
8月 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ ・意見文を書く ・評論を読む 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路決定を目指した取組への活用（就職） ・履歴書の作成（志望動機） ・面接試験、作文（進学 [A〇入試、推薦入試]） ・プレゼンテーション、面接試験 ・小論文

○教科国語へのフィードバック

・体験活動等を通じた知識・技能の定着
・体験活動等を通じた国語の必要性の認識

・国語の学習に対する
関心・意欲の向上

・話す力、聞く力の向上
・書く力の向上
・読む力の向上